⑷　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医薬品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの

473,783千円

18,830,940千円

2．担保資産及び担保債務

担保に供している資産	担保されている債務
土地　22,332,150千円	長期借入金　112,840千円

3．国立大学財務・経営センターに対する債務保証の額

当事業年度における債務保証の総額は16,296,313千円であります。

4．運営費交付金にて財源措置されている賞与の見積額

運営費交付金にて財源措置されている賞与の見積額は1,840,301千円であります。

5．運営費交付金にて財源措置されている退職給付の見積額

運営費交付金にて財源措置されている退職給付の見積額は28,639,379千円であります。

6．土地の譲渡に伴う資本金の減少

名称	北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション静内研究牧場	低温科学研究所附属旧紋別流氷研究施設（宿泊棟）及び旧紋別流氷研究施設第二宿舎
譲渡した土地の帳簿価額及びその概要	帳簿価額：342千円 面　積：19,695.16㎡ 所在地：北海道日高郡新ひだか町	帳簿価額：1,096千円 面　積：1,486.21㎡ 所在地：北海道紋別市
譲渡理由	北海道が施行する炭山川砂防工事（道州）のため	流氷研究施設の廃止による処分
譲渡収入の額	1,156千円	6,810千円
独立行政法人国立大学財務・経営センターへの納付額の算定に当たり譲渡収入より控除した費用の額	1,000千円	1,000千円
独立行政法人国立大学財務・経営センターへの納付額	78千円	2,905千円
独立行政法人国立大学財務・経営センターへの納付が行われた年月日	平成23年３月30日	平成23年３月30日
減資額	171千円	548千円

Ⅳ．損益計算書関係

1．当期利益のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額	2,401,509千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	511,818千円
当期総利益に与える影響額（差引き）	1,889,691千円

⑵　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額	6,025千円

1,895,716千円

Ⅴ．キャッシュ・フロー計算書関係

1．資金の期末残高の貸借対照表科目別の明細の内訳

現金及び預金	4,827,802千円
うち定期預金（控除）	500,000千円
（差引）資金期末残高	4,327,802千円

2．重要な非資金取引

ファイナンス・リース取引による資産の取得

工具器具備品	122,869千円
当事業年度に新たに計上した重要な資産除去債務の額	590,920千円

Ⅵ．国立大学法人等業務実施コスト計算書関係

引当外退職給付増加見積額のうち8,286千円は国又は地方公共団体からの出向職員に係るものであります。

特定償却資産の除却損については、損益計算書に固定資産除却損として計上するものを除き、従来「損益外固定資産除却相当額」に計上しておりましたが、当事業年度より「損益外除売却差額相当額」の区分に計上しております。これによる国立大学法人等業務実施コストに与える影響はありません。

Ⅶ．減損会計関係

1．減損を認識した固定資産

用途	水槽センター	資料保管庫		
種類	建物	建物		
場所	北海道函館市	北海道有珠郡壮瞥町		
帳簿価額（減損の認識を行った時点の金額）	8,288千円	534千円		
減損の認識に至った経緯	使用しないことを決定	業務実績の低下		
減損額のうち損益計算書に計上した金額	—	—		
減損額のうち損益計算書に計上していない金額	8,288千円	534千円		
回収可能サービス価額	使用価値相当額	使用価値相当額		
使用価値相当額を採用した理由	注１―⑴	注１―⑵		
算定方法の概要	注２―⑴	注２―⑴		

注１）使用価値相当額を採用した理由

⑴　取り壊しによるものであり、売却を想定していないため

⑵　老朽化等によるものであり、売却を想定していないため

注２）回収可能サービス価額の算定方法の概要

⑴　合理的な算出が困難なため備忘額とした